

2022年1月26日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

**笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ 歴史の検証』**  
**——「多様性と調和」の祭典実現の立役者が語る、共生社会への展望——**

## 第105回 小谷 実可子 氏

(2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会スポーツディレクター)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊一利）では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のお話をもとにスポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」を掲載しています。

2021年度のテーマは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」。昨夏に行われた2020年東京大会に尽力された関係者の方々に、それぞれの立場・視点で大会を振り返っていただきます。

アーティスティックスイミング選手として活躍した小谷実可子氏は、引退後もスポーツ界で活動を続け、2020年東京大会の招致に貢献しました。開催決定後は、日本オリンピック委員会理事、選手村副村長、大会組織委員会スポーツディレクターなどの立場から大会に関わり、ジェンダーや障がいの有無に関係なく認め合う、大会コンセプト「多様性と調和」を推進しました。

本記事では、その詳細と今後の展望が小谷氏自身の言葉で語られております。ぜひご一読ください。

### 「東京オリンピック・パラリンピック開催への道のり」 小谷 実可子 氏

【公開日時】2022年1月26日（水）公開

【URL】[https://www.ssf.or.jp/ssf\\_eyes/history/interview/105.html](https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/105.html)

スポーツ歴史の検証 で検索ください！

【主な内容】2012年ロンドン大会を機に変わったアスリートの意識／コロナ禍での開催に向けて続いたいばらの道／パラリンピックに感じられた目指すべきD&Iの姿／ポジティブ思考をもたらした友人からの言葉／アスリートに期待されるロールモデルとしての役割



《プロフィール》

#### 小谷 実可子（こたに みかこ）氏

1966年生まれ。元アーティスティックスイミング選手。1988年のソウルオリンピックではデュエット・ソロともに銅メダルを獲得。1992年バルセロナオリンピック後に現役を引退すると、2017年、日本オリンピック委員会理事に就任。2020年には開幕まで1年を切った2020年東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会スポーツディレクターに就任、安心・安全な大会の開催と、大会における「多様性と調和」の実現に尽力した。

#### 佐野 慎輔（さの しんすけ）氏 / インタビュアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、尚美学園大学スポーツマネジメント学部教授、笹川スポーツ財団理事／特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

＜スポーツ歴史の検証＞概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス